

1 生理・生態

- ・ ナス科—ソラナム属
- ・ 原産地は、中央アメリカから南アメリカにのびるアンデス山脈を中心とする山岳地帯
- ・ 5℃以上で生育を開始
- ・ 塊茎の肥大適温は15～18℃
- ・ 茎葉の生育には21℃が適する。
- ・ 25℃を超える夏日では、呼吸量が多くなり生育が確保できなくなり、二次生長・褐色心腐・中心空洞など生理障害の発生も助長される。
- ・ 土壤の適応性は広いが、排水と保水性が良く肥沃な土壤でよく生育する。
- ・ 土壤酸度はpH5.7前後の弱酸性が適し、pH4.5以下、7.0以上で生育が悪くなる。
- ・ 生育適温で、疫病も発生しやすいので、疫病をいかに防ぐかが栽培のポイントである。

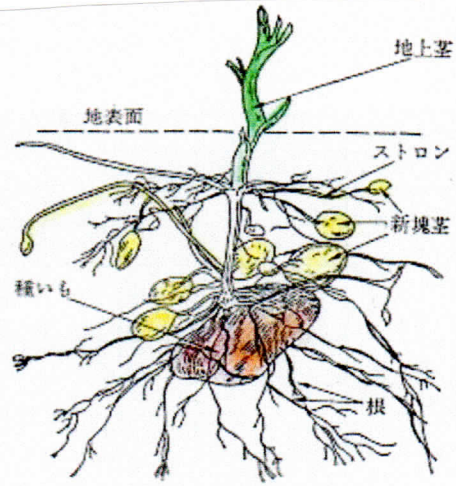


図 地下部の形態 (コピンス, 1926)

(7) 培土作業

【培土の効果】

根圏域の確保、保水力の維持、中心空洞・褐色心腐・二次生長の予防、緑化防止、雑草発生防止、倒伏防止

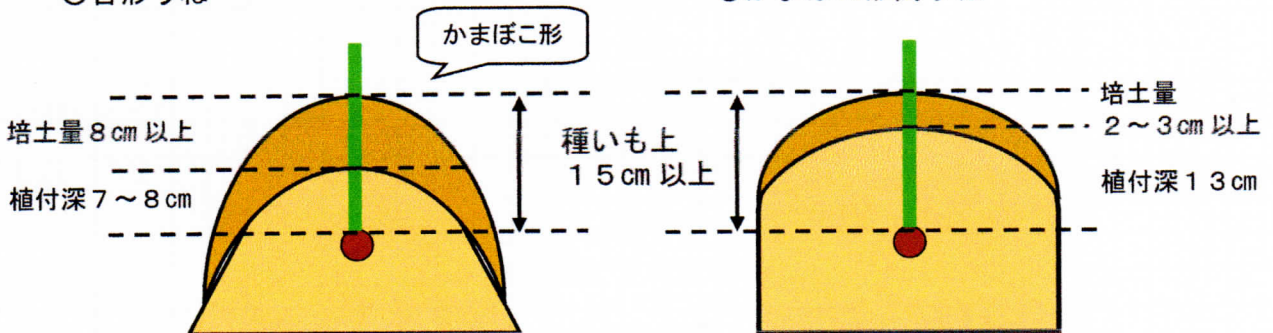
【作業方法】

- ・ 培土1回の場合は、萌芽後10～20日の間に行う。
- ・ 培土2回の場合は、萌芽10日後と20日後に行う。
- ・ 培土が遅れると根やストロンを傷めるので、蕾が6～7割着く頃までに必ず終える。
- ・ 培土量が不足すると、日焼けや粗皮（ラセット）等の発生につながるため、最終的な覆土厚は15cm以上を確保する。
- ・ 培土1回で覆土厚が15cm以上確保出来なかった場合は、早急に2回目の培土を実施し、覆土厚を確保する。
- ・ 培土後の畦の形状は、かまぼこ形となるようにする。

【培土後の畦形状】

○台形うね

○かまぼこ形高うね



- ・ 圃場が湿っている状態で無理に培土作業を行うと、変形いも等の発生要因になるので避ける。
- ・ 土寄せでできた溝はしっかりと額縁排水溝に連結し、水が溜まらないようにする。